

# 特 殊 報

長崎県病虫害防除所長

## 令和元年度病虫害発生予察 特殊報第2号

- 1 病虫害名 クロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley)
- 2 発生作物 ナス (施設栽培)
- 3 発生確認の経過及び発生状況
  - (1) 令和2年2月6日に県内のナス圃場において、コナカイガラムシ類と推定される成幼虫が、ナスの茎葉及び果梗枝に寄生し加害しているのが確認された。寄生部位には黒いすす状の汚れを生じていた (写真1、2)。
  - (2) 採集した雌成虫を農林水産省門司植物防疫所に同定依頼した結果、県内では未発生のクロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley) であることが確認された。
  - (3) 国内では沖縄県 (スイゼンジナ、ヒマワリ)、佐賀県 (ナス)、福岡県 (ミニトマト、ナス)、愛知県 (食用トレニア、食用キンギョソウ)、山口県 (トマト)、高知県 (ナス)、鹿児島県 (ミニトマト)、大阪府 (ナス)、奈良県 (ホウレンソウ) で発生が確認されている。
- 4 形態及び生態等
  - (1) 雌成虫は翅を欠き、体形は楕円形。体長は通常3～4mm程度であり、大きい個体は5mmを越える。背面に白色のロウ質物を分泌し、全体としては白く見えるが、ロウ質物は垂中部で薄くなるため黒色の地肌が透けて見え、2対の黒斑があるように見える (写真3)。
  - (2) 雌成虫はワタ状のロウ質物の卵のう内に平均350個程度産卵する。繁殖様式は、交尾後産卵する有性生殖と、雌成虫が交尾せずに産卵する単為生殖の両方が知られている。1齢幼虫は数日間卵のう内で過ごした後、摂食のために歩いて分散する。雌は2齢幼虫、3齢幼虫を経て成虫になる。雄は2齢幼虫の終わりに繭を作り、前蛹、蛹を経て羽化し、1対の翅を持つ成虫となる。本虫の単為生殖個体群における1世代の発育期間は平均70日程度である。
  - (3) 広食性で、海外ではワタ、オクラ、トマト、ナス等、53科154種の植物への寄生が確認されている。寄主植物への被害は、分泌された甘露によるすす病の発生のほか、他県では本虫の吸汁によるものと考えられる生育障害 (新葉の萎凋等) が報告されている。
- 5 防除対策
  - (1) 茎葉への寄生や甘露によるすす病の発生等早期発見に努め、発生を確認したら、発生株もしくは寄生部位を除去し、圃場外に持ち出し、土中深くに埋める等の処分を行う。
  - (2) 寄主範囲が広く、圃場周囲の雑草へ寄生していることがあるため、除草を徹底する。
  - (3) 施設栽培では、栽培終了後に開口部を密閉して蒸し込みを行う。
  - (4) 令和2年2月現在、ナスにおいて本虫に適用のある薬剤はない。



写真1

クロテンコナカイガラムシによって発生したすす病



写真2



写真3 クロテンコナカイガラムシ雌成虫



写真4 ナスに寄生したクロテンコナカイガラムシ雌成幼虫

※写真撮影日 令和2年2月12日

---

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

